

NARA Yoshitomo: a bit like you and me...



〈ちょっと意地悪〉2012、白銅、h153.0×125.0×135.0cm、©NARA Yoshitomo、撮影：森本美絵

奈良美智： 君や 僕に ちょっと 似ている

一目見ると忘れがたい印象を残す子どもや動物たち。奈良美智（なら・よしとも）が作り出すものたちは、時に挑戦的であり、またある時には瞑想しているような憂いを帯びた、多彩な表情を見せてくれます。そこには、可愛らしさの奥底に秘められた強い意思や、言葉にできない感情といった、相反する営みが共存する人間の奥深さが表れ、見る者の想像力をかきたてる魅力を秘めています。

絵画やドローイングをはじめ、大規模なインスタレーションなど、多様な作品を通じて広く世界中の人々を魅了してきた奈良美智は、今、再び創作活動の原点に立ち返り、文字通り自らの手によって生み出される指の跡もあらわな彫刻など、新たな作品世界を切りひらこうとしています。

タイトル「君や僕に ちょっと似ている」は、ビートルズの「Nowhereman」の歌詞に登場するフレーズです。作家によるステートメント（次頁参照）に記されているように、それは作家と作品の関係、さらに観客と作品の関係性を示しています。様々なレベルにおいて絶え間ない変化を続ける世の中で、人々の共感を呼び、長く残り、語り継がれるもの。それは「君」や「僕」に「ちょっと似ている」、普遍性を持つ存在であることでしょう。これまで作家の分身として送り出されてきた作品は、より自立した存在として私たちと向かい合い、永続性のある共感関係を結んでくれるに違いありません。

本展は、作家にとって初の挑戦となる大型のブロンズ彫刻をはじめ、絵画やドローイングなどの新作により構成されます。2001年に開催した国内初の大規模な個展以来、横浜美術館では11年ぶりの個展開催となり、その後、青森、熊本へ巡回します。

2012年 7月14日(土) – 9月23日(日)
横浜美術館

君や僕にちょっと似ている

a bit like you and me...

今まで、自分が作ってきたものたちは、それらが自分からどんなに遠くへ行ってしまうても、自分と繋がっていて、自分の体の一部であるかのようだった

最近、レゾネ制作を通して自分の作品をかなり冷静に、且つ客観的に見ることができた。それは自分史ではなく、作品史であった。作品の緩やかな移り変わりは、作者以上にしっかりと人生という道を歩いてきたように思える。

思い返すに、2001年の横浜個展では、作品たちはあくまでも僕のものであり「I DON' T MIND, IF YOU FORGET ME.」という展覧会タイトルのように突き放すことだって平気だった。どんなに突き放しても、作品は自分と共にあるという確信があった。世の中には自分と作品しかないよう感じていたし、逆にオーディエンスにこそ「僕のことを忘れて欲しい」とさえ思っていたのだ。

今現在、レゾネ制作や震災、オーディエンス層の拡大、過大な、あるいは順当な、あるいは不当な評価、数々の展覧会での経験、自身の加齢…いろいろな理由から、僕は作品を自分の元から旅立たせること（作品自体としての自立）を現実的に考えられるようになったようだ。

もはや好むと好まざるにかかわらず、自分が作るものは、僕自身の自画像ではなく、鑑賞者本人や誰かの子どもや友達だと感じるオーディエンスのものであり、欲を言えば美術の歴史の中に残っていくものになっていくと思っている。自分の肉体が減んでも、人類が存在する限りは残っていくものということだ。

そういう意味も込めて、もはや自画像ではなく「自分にちょっと似ている」自立したもの、かといって100%オーディエンスに委ねられるものでもない。僕の絵を見て「これは私だ!」と自己投影する話はよく聞く。それはビジュアル的な表面にではなく、内面や重なり合うレイヤーを感じての自己投影。僕は、そういう時は、もうそれでいいと思うようになった。でも、やはり自分が作り出したという親心は残っている。それで「僕にちょっと似ている」であり「君にちょっと似ている」となったわけなのだ。そして、それらはあくまでも「僕や君にちょっと似ている」のであって、作品自体は僕やオーディエンスのように、ひとつひとつが自我を持つ「作品という名の本人」であるのだ。

けれども、スタジオで彼らを作り出していく過程においては、僕と彼らは依然として一心同体であり、オーディエンスや批評は遠くに行ってしまう。壁に貼られたポスターの中にいるヒーローたちや、棚に並んでいる時代遅れの人形たちだけが、僕と彼らの密接なやりとりを知っている。

奈良美智



《夜まで待てない》2012、アクリル・カンヴァス、197.0×182.5cm
©NARA Yoshitomo、撮影：木奥恵三



《Real One》2012、アクリル・板、169.5×194.0×7.5cm
©NARA Yoshitomo、撮影：木奥恵三



《Should I Go?》2011
鉛筆・紙、65.0×50.0cm
©NARA Yoshitomo



《Searching》2011
鉛筆・紙、65.0×50.0cm
©NARA Yoshitomo

チケット情報

	一般	大学・高校生	中学生	小学生以下
前売券	1,000	600	300	無料
当日券	1,100	700	400	
団体券	1,000	600	300	

※毎週土曜日は、高校生以下無料（要生徒手帳、学生証）。

※障がい者手帳をお持ちの方と介護の方（1名）は無料。

※本展チケットで観覧日当日に限り横浜美術館コレクション展もご覧いただけます。

※リピーター割引：観覧済みの当館企画展（ヨコハマトリエンナーレ2011も含む）の有料チケットをご提示いただくと、団体料金でご覧いただけます。（ご観覧された展覧会の最終日から1年間、1名様1回限り有効）。



©NARA Yoshitomo

販売場所	券種	販売・申込方法	備考
横浜美術館	前売券 (引換券)	ミュージアムショップで、 7月13日（金）まで販売。	営業時間11:00～18:00 休館日：木曜日 ※6/25(月)～7/6(金)は商品入替のため休業。
	当日券	美術館内券売所で販売。	
	団体券	事前に 045-221-0300 までお申込みください。 ※有料 20 名様以上	電話受付10:00～18:00 休館日：木曜日
セブン-イレブン	前売券 (引換券)	セブン-イレブン店内にある マルチコピー機「セブンチケット」 ※前売は 7月13日（金）まで販売。	セブンコード：016-908
	当日券 (引換券)		

※前売券およびセブン-イレブン販売のチケット（引換券）は、ご観覧日に本展受付にて、図版入りチケットに交換いたします。

基本情報

会期 2012年7月14日（土）～9月23日（日）
会場 横浜美術館
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3-4-1
TEL: 045-221-0300 FAX: 045-221-0317
開館時間 10:00～18:00（入館は17:30まで）
休館日 木曜日
展覧会公式サイト www.nara2012-13.org
横浜美術館サイト www.yaf.or.jp/yama

主催：横浜美術館（横浜市芸術文化振興財団・相鉄エージェンシー・三菱地所ビルマネジメント 共同事業体）
協力：みなとみらい線／横浜ケーブルビジョン／FMヨコハマ／首都高速道路株式会社
協賛：SHISEIDO
後援：横浜市



《春少女》2012、アクリル・カンヴァス、227.0×182.0cm
©NARA Yoshitomo、撮影：木奥恵三

巡回情報

青森県立美術館 2012年10月6日（土）～2013年1月14日（月・祝）
熊本市現代美術館 2013年1月26日（土）～4月14日（日）



《My Bear》2012、アクリル・板、174.0×174.0×9.0cm
©NARA Yoshitomo、撮影：木奥恵三

プレスリリースお問い合わせ ※横浜美術館会場に関する内容に限ります。

横浜美術館 広報担当（宮野、藤井、慶野）

TEL: 045-221-0319 FAX: 045-221-0317 E-mail: pr-yama@yaf.or.jp